富士通の
教育ビジョン

－ 未来への学び －

FUJITSU

富士通は何のために存在するのか
そのためにわたしたち一人ひとりが何をするのか

Our Purpose

わたしたちのパーパスは、
イノベーションによって社会に
信頼をもたらし、世界をより
持続可能にしていくことです。

Fujitsu Wayについて
https://www.fujitsu.com/jp/about/philosophy/

富士通は、学びを通して一人ひとりが夢に挑戦できる未来を、みなさまと共に創っていきたいと考えています。

富士通は、未来を築く鍵は「人」だと考えています。

人と人とがつながり、協力しあいながら創造性を発揮し、大きな価値がすべての人にもたらされる、
それが未来のあるべき姿ではないでしょうか。

一人ひとりの人が持つ能力と可能性をたえず伸ばし、お互いに協力しあいながら、社会全体の力を
高めていくことが、より豊かな未来に向けて求められています。

富士通が人の学びと成長にどのように貢献するかについて
「富士通の教育ビジョン －未来への学び－」としてご紹介します。

Fujitsu uvance

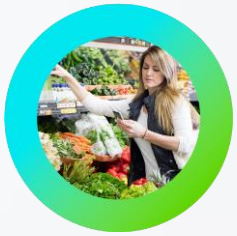
社会課題を起点として、クロスインダストリーでお客様の成長に貢献するデジタルサービスを提供

Fujitsu uvance

Vertical Areas

社会課題を解決する
クロスインダストリーの4分野

Sustainable Manufacturing



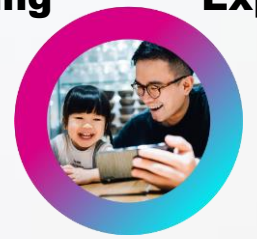
Consumer Experience

Healthy Living

Trusted Society

Horizontal Areas

クロスインダストリーを支える
3つのテクノロジー基盤



Digital Shifts

Business Applications

Hybrid IT

Key Technologies

- Computing
- Network
- AI
- Data & Security
- Converging Technologies

富士通の教育ビジョン －未来への学び－ ｜CONTENTS

1. 未来を築く学び

社会の変化 「予測のつかない社会で変化に立ち向かう」…… 5
富士通が考える学び 「学び続ける人が未来を築く」…… 6

2. 学びのために富士通ができること

富士通が考える大切なこと …… 8

3. 富士通の取り組み

		小中高	大学	社会	
大学教育・研究におけるAI活用	データ活用		●		12
地域産業発展に向けた大学改革支援	データ活用		●	●	13
スモールスタートによる最適かつ効果的なデータ活用を支援	データ活用		●		14
学修・教務データの統合と分析による「教育／研究／経営」の改善支援	データ活用		●		15
子どもたちの未来のために図書館を活用した地域一体型の教育	学習支援	●		●	16
大学基幹システムの将来	学習支援		●		17
「Webギャラリー」で収蔵品の魅力を最大限に	学習支援			●	18
データ連携で紡ぐ子どもの未来 ～佐渡市の挑戦～	人材育成	●		●	19
教育DX推進に向けた人材育成（山梨県教育委員会）	人材育成	●			20
「神山まるごと高専」と富士通のコラボ活動、3年目へ	人材育成		●	●	21

		小中高	大学	社会	
社会の課題解決に貢献する人材育成	人材育成	●		●	22
世代や文理の枠を超えた、「AI倫理の産学連携」	人材育成		●		23
富士通Japan教育分野の知見を集結したDXコンサルティングを始動	技術・プログラム・創造		●		24
AIによる探索サービスの社会実装	技術・プログラム・創造	●	●	●	25
安心安全な鉄道利用に向けた「エキマトペ」	技術・プログラム・創造	●		●	26
スポーツの楽しさを伝え、互いに学び合う心を育む	スポーツ	●			27

コラム

未来に向けたチャレンジ

対話を通じ未来への力を醸成する取り組み …… 30

職場における実務経験やキャリア教育の場の提供 …… 31

ビジネスの現場での、実践型育成プログラム …… 32

富士通グループの挑戦

移住型「地域デジタル人材」派遣でお客様・地域・日本を変革！ …… 33

社内起業家育成と新規事業創出を目指すプログラム …… 34

富士通グループの実践

富士通グループのキャリア形成支援 …… 35

富士通グループの働き方改革 …… 36

富士通グループの未来を創る挑戦者のためのデジタル証明 …… 37

Fujitsu Technology and Service Vision

Fujitsu Technology and Service Visionは、どのような未来をお客様やパートナーと共に実現したいのかを伝える、進化を続けるストーリーです。

ビジネスや社会は今、不安定な政治・経済情勢、地政学的リスク、気候変動などが複雑に絡み合う、かつてないほど不確実な状況に直面しています。目覚ましい進化を遂げるAIは、ビジネスの生産性向上にとどまらない、産業革命以来の大変革をもたらす可能性を秘めています。一方、AIが生み出す偽情報やバイアスによる社会の混乱、電力消費量の増大といった負の側面も顕在化しています。

このような予測困難な時代において、ビジネスリーダーは人とAIの力をどのように活用し、未来を切り拓いていけばよいのでしょうか？

Fujitsu Technology and Service Vision 2025では、AIの進化がビジネスや社会をどのように変えていくのか、そして富士通がお客様やパートナーとどのような価値を共創していくのかをご紹介しています。

Fujitsu Technology and Service Vision
https://global.fujitsu/ja-jp/about/vision

1 未来を築く学び

社会の変化

予測のつかない社会で
変化に立ち向かう

10年後、私たちはどんなふうに暮らしているだろうか？

リンダ・グラットン教授が著書の中で述べているように、
グローバル化や、エネルギー・環境問題の深刻化、
たえず続くテクノロジーによる革新によって、
私たちの暮らしは変化し続けています。

テクノロジーの進展とボーダレス化は、
組織を越えた個人の力の発揮や、
共通の関心を持つ人々との自由なつながりを促します。
また身のまわりにある様々なモノもネットワークでつながり、
そこから生み出される膨大な情報が、
これからの価値の源泉になると考えられています。

変化はとどまることなく急速に進み、
未来の社会は今の延長線上にはありません。
COVID-19により、困難で複雑な世界に拍車がかかっています。

人は予測のつかない社会で変化に立ち向かい、
新たな解を見出していきます。
そして、未来を築きあげていくのです。

* リンダ・グラットン教授
ロンドン・ビジネススクール、人材マネジメント論の世界的な権威。
著書に「未来企業」、「ライフ･シフト」、「ワーク･シフト」ほか

富士通が考える学び

学び続ける人が
未来を築く

私たちはみな生まれながらにして学習者です。

年代や場所、文化に関わらず、
あらゆること・人から学び続けようとする行動が、
私たちのDNAに深く刻み込まれています。

物事の本質をとらえて理解すること、
その理解を自分の力として実践すること、
多様な人と議論をしながら協働すること、
そしてその過程を楽しむこと。

これらをたえず続けることにより、
今までにない新しい価値を創造し、
よりよい社会を実現することができます。

富士通は、学びを通して一人ひとりが夢に挑戦できる未来を、
みなさまと共に創っていきたいと考えています。

2 学びのために富士通ができること

富士通が考える大切なこと

富士通の歴史は、お客様と共に新たなことに挑戦してきた歩みです。

富士通は新たなテクノロジーを研究・開発し、それらを通じて社会の課題を解決し、日々の生活をより豊かにすることを目指してきました。

予測のつかない社会で人が学び続けるために、富士通はテクノロジーを通じて、人の学びをより身近なものに変えていきたいと考えています。

このとき、富士通が大切だと思っていることは、

探究、挑戦、協働、そして、創造です。

探 究

Learn by Exploring
物事の本質を問い、探究し続ける

探究の出発点となる機会をつくります

最先端の学びに触れる機会や
実社会に触れることのできる場を提供します

富士通は最新の技術に触れて未来を描くための場や、インターネットでいつでもだれでも参加できるオープンな学びの場を提供し、「未来への気づき」のきっかけづくりに貢献します。
「わかった！」そして「次は何をしよう？」という探究の心を育むことを大切にしています。知識を実社会と結び付けて学び、今までの知識と組み合わせて活用するような、アクティブ・ラーニングの視点に立った学びの環境づくりを支援していきます。

挑 戦

Learn by Challenging
未知の体験に思い切って飛び込む

挑戦を後押しします

挑戦し評価される場を創出すると共に
社会の一員として富士通自らも挑戦します

新たに挑戦することや挑戦する人を後押しします。各種コンテストへの支援やアイデアソンなどのイベントを開催し、様々な人の挑戦をサポートしています。
富士通自身も次世代のコンピュータの開発や、人工知能（AI）の研究のような、困難であってもこれからの社会を変えていく夢のある未来創造へ取り組んでいます。より豊かな社会づくりを目指し、失敗を怖れず、あくなき挑戦を続けます。

協 働

Learn by Collaborating
他者と目標を共有し、力をあわせ活動する

多様な人と共創できる場を提供します

コミュニティを作るためのサービス・ソリューションや
異文化に触れることのできる場を提供します

多様な立場の人が意見を出し合い、共有・議論して新しい発見をしながら解決策を見つけていくことを、サービス・ソリューションの提供やワークショップの企画・開催などを通じて支援していきます。
オンライン上で実際の付箋や模造紙、ホワイトボードを使っているように遠隔地と議論することもできます。時間や場所を越えて多様な人と協働することが可能になり、様々な意見、考えに触れて、新しいことを生み出す可能性が広がります。

創 造

Learn by Creating
アイデアをかたちにする

思いを言葉やかたちにします

考えをまとめるプロセスを記録し表現しやすくするサービスや
アイデアをかたちにし発表する場を提供します

教育現場では自らのアイデアを形にし、発信力や表現力を磨く活動が実施されています。しかし、現在はその成果やプロセスが記録として残りにくい状況ではないでしょうか？
富士通はICTによって、成果やプロセスを記録し活用することを支援します。それにより、学ぶ人が多くの気づきを得たり、成長の変化を把握することで、学習意欲の向上とその持続性を保ち、さらなる学びにつながっていくと考えます。

3 富士通の取り組み

大学

大学教育・研究におけるAI活用

機械学習と生成AIを活用し、新たな価値の創出へ

生成AIの登場は社会全体に大きな変革をもたらし、大学教育や研究活動にもその波は押し寄せつつあります。一方で、どこから着手すべきか、どのように活用すべきかといった課題から、具体的な実践に至らないケースも少なくありません。富士通JapanはAI活用ユースケースの検討とその効果、課題および実現性評価のためお客様と共にAI活用ワークショップやAI検証に取り組んでいます。

教育領域では、支援が必要な学生を早期に特定することで、個々の学生に必要な情報を必要なタイミングで届け、より充実した学生生活を送ることを目指しています。その実現に向けた手段の1つとして退学者予測の実証実験を実施しました。過去の学生データから機械学習を用いた予測モデルを構築し、現在の学生データを入力することで、退学する可能性の高い学生を予測します。これにより、高い精度での予測結果*1を確認できました。

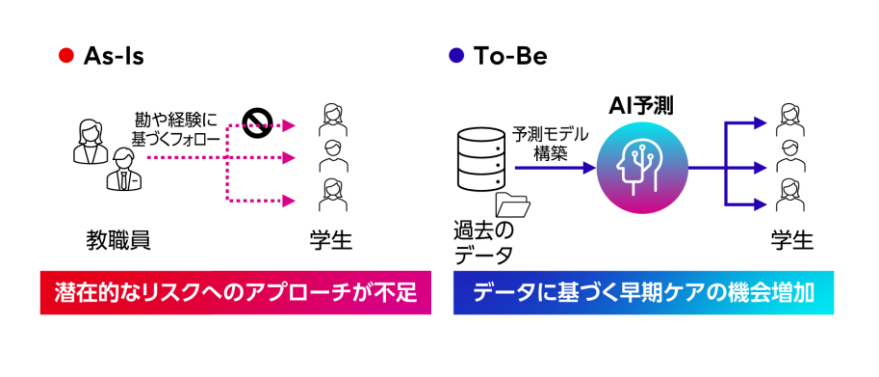
研究領域では、研究成果を必要な人に届けること、研究者同士を結び付けるなど活動を活性化することを目指しています。その実現に向けて研究者情報の集約と発信をテーマに、生成AIを活用した実証実験を行いました。学内にある教員情報や研究成果を生成AIのRAG*2に登録し、大学固有の情報に基づいたアウトプットを得るシステムを実現できるよう評価・課題整理を実施しました。精度の高い予測や情報発信には、適切なデータ収集と管理が不可欠です。今回の実証の結果、必要なデータの種類、保有方法、収集ルールなど、新たな課題も見つかりました。

今後は、これらの課題を解決しながら、大学におけるAI活用を本格的に推進していきます。教育・研究の質向上に貢献するサービスの展開を目指して取り組んでいきます。

*1 高い予測結果：予測精度はお客様データの量と質に依存します
*2 RAG：Retrieval Augmented Generation（検索拡張生成）の略称
LLM（Large Language Models：大規模言語モデル）が生成する回答の精度を高める技術

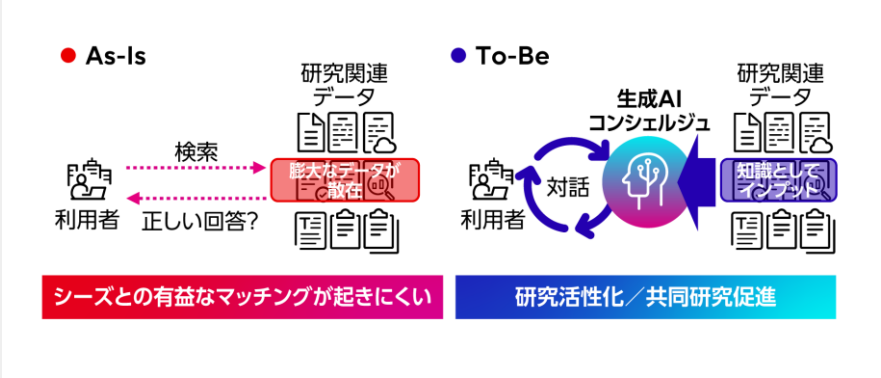
教育領域

過去の学生データを用いて、予測モデルを構築。
支援が必要な学生を早期に特定しケアすることで
より充実したキャンパスライフを実現。



研究領域

散在する大学固有のデータを生成AIの知識としてインプット。
対話形式で情報収集し、学内シーズの最大限の活用を目指す。



上：機械学習による退学者予測イメージ
下：生成AIによる研究者情報の集約発信イメージ

大学　社会

地域産業発展に向けた大学改革支援

技術職員のスキル活用と一般公開に向けた取り組み

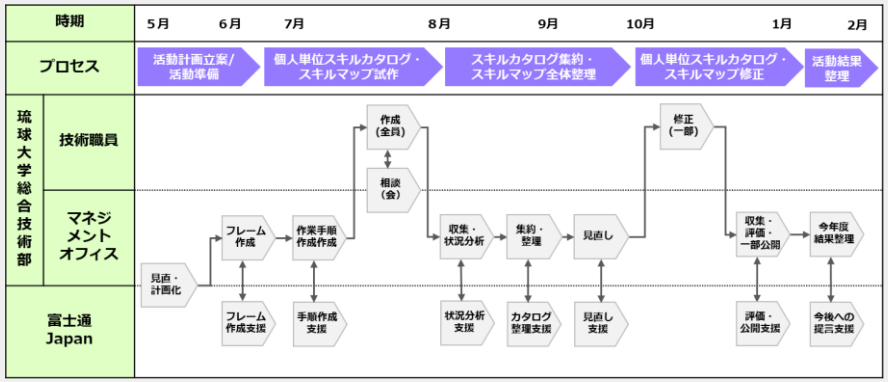
大学における技術職員は、研究や教育活動を支える重要な役割を担っています。しかし、専門性やスキルは大学内部で留まり、そのポテンシャルを地域にいかし切れていない現状があります。そのため技術職員のスキルを可視化することで活用機会を増やし、地域社会に貢献できる仕組みづくりが求められています。

この仕組みづくりに向け、富士通Japanは琉球大学と連携し、2023年度にデジタル庁「Trusted Web の実現に向けたユースケース実証事業」の採択を受け、プロジェクトをスタートしました。2024年度は、文部科学省先端研究基盤共用促進事業（コアファシリティ構築支援プログラム）の一環で技術職員80名以上のスキルを網羅したスキルカタログを整備しました。

スキルマップ／スキルカタログを集約整理した成果は、琉球大学総合技術部のウェブサイトで公開されています。このカタログには、技術分類ごとに保有する能力とスキルのレベルを掲載しています。公開されたスキルカタログは、琉球大学の教職員のみならず、地域企業や他大学といった学外機関からもアクセスできます。これにより、例えば地域企業が抱える技術的な課題に対して、専門知識やスキルをいかした受託業務や共同研究を行うことで、地域産業の活性化への貢献が期待されます。

今後の展望としては、公開情報の検索機能の改善、地域企業や他大学への周知活動の強化、活用事例の積極的な発信を通じて、技術職員の社会的な認知度を高め、活躍の場を広げていく計画です。

本取り組みは、技術職員の活躍促進における重要な一歩です。**大学と地域社会の連携強化、そして技術職員の社会貢献**という観点から、大きな可能性を秘めており、この成功事例は技術職員の地位向上や他大学における同様の取り組みに大きく貢献すると考えられます。



上：プロジェクトフロー
左下：大学への業務依頼フォーム
右下：公開されたスキルカタログの一部

国立大学法人琉球大学総合技術部
https://itec.skr.u-ryukyu.ac.jp/itecweb/skill_catalog

大学技術職員の活躍に向けたスキルの見える化：スキルの質保証と主体的情報開示の試行（富士通Japan株式会社）
https://trustedweb.go.jp/news/5qkylw71ybik

大学

スモールスタートによる
最適かつ効果的なデータ活用を支援

PoC*サービス実施による計画の立案

社会におけるデータの重要性が増す中で、大学でもデータ分析・活用に関する取り組みが求められています。

しかしながら、**大学におけるデータ活用には課題が多く、まだまだ実践が進んでいないのが現状**です。

主な原因として、目的に応じたデータの前処理が必要、専門的な知識のある人材が不在で運用の進め方がわからない、うまくいかなかったときのリスクを考えると投資できない、具体的な効果を関係者に伝えづらいなどの理由が挙げられます。

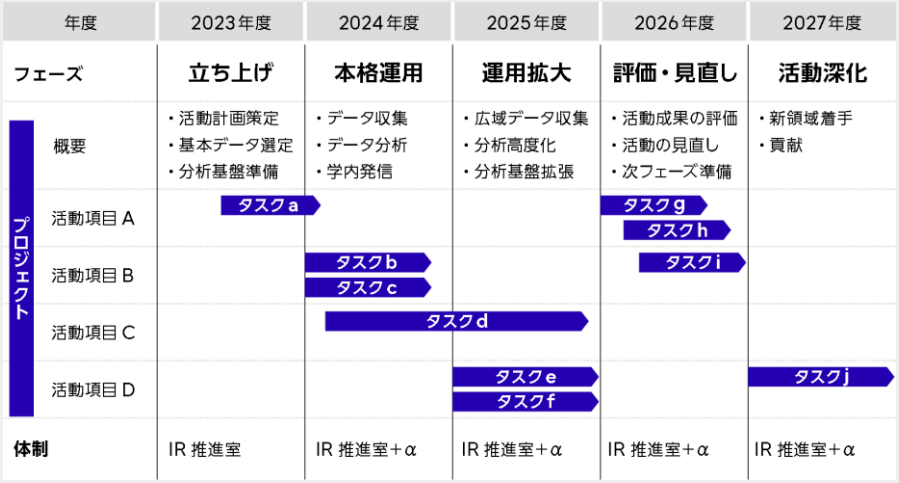
これらの課題を解決するために、富士通 Japan は**70以上の大学でのIR支援実績**を基に、IR推進への投資を実現する有償PoCサービス（以降PoCサービス）を提案しています。

当社のPoCサービスは、大学IRを進めるうえで実データを使用して分析の有用性を検討する実証サービスです。豊富な経験を持つプロフェッショナル人材が、各大学におけるデータ活用の目的を明確にしたうえで利用できるデータを選定し、既存データを活用した分析を行います。低予算かつ小規模で仮説検証を行うことができるPoCサービスを通じて、**お客様と共に、最適で効果的なデータ活用計画を立案**します。

実際に本サービスを活用いただいた大学では、データ活用推進部署、利用者、提供者と共に、既存データを用いた現状の可視化と簡易的な分析を実施しました。これにより、**既存データ活用の可能性と今後の戦略策定の必要性が明確になりました。**

富士通 Japan は、単なるシステムの導入提案に終わらず、教育・研究・経営の改善を目指した支援に取り組んでいきます。

* PoC：Proof of Concept。新しい手法などの実現可能性を見出すために、システム導入前の検証を指す言葉



PoCサービスの活動計画立案イメージ（例）

教育	・入試方法と入学後の成績変化の相関 ・推薦校入試の学生成績の推移 ・カリキュラム変更に伴う評価
研究	・研究領域別の科研費取得動向 ・学内研究者の学外共同研究費取得動向 ・企業連携による地域貢献度度合い

特色のあるPoCの検討テーマ事例（一部）

Fujitsu 文教ソリューション　大学IR
https://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/education/campus/management/

大学

学修・教務データの統合と分析による「教育／研究／経営」の改善支援

多様なデータに基づく大学改革の実現に貢献

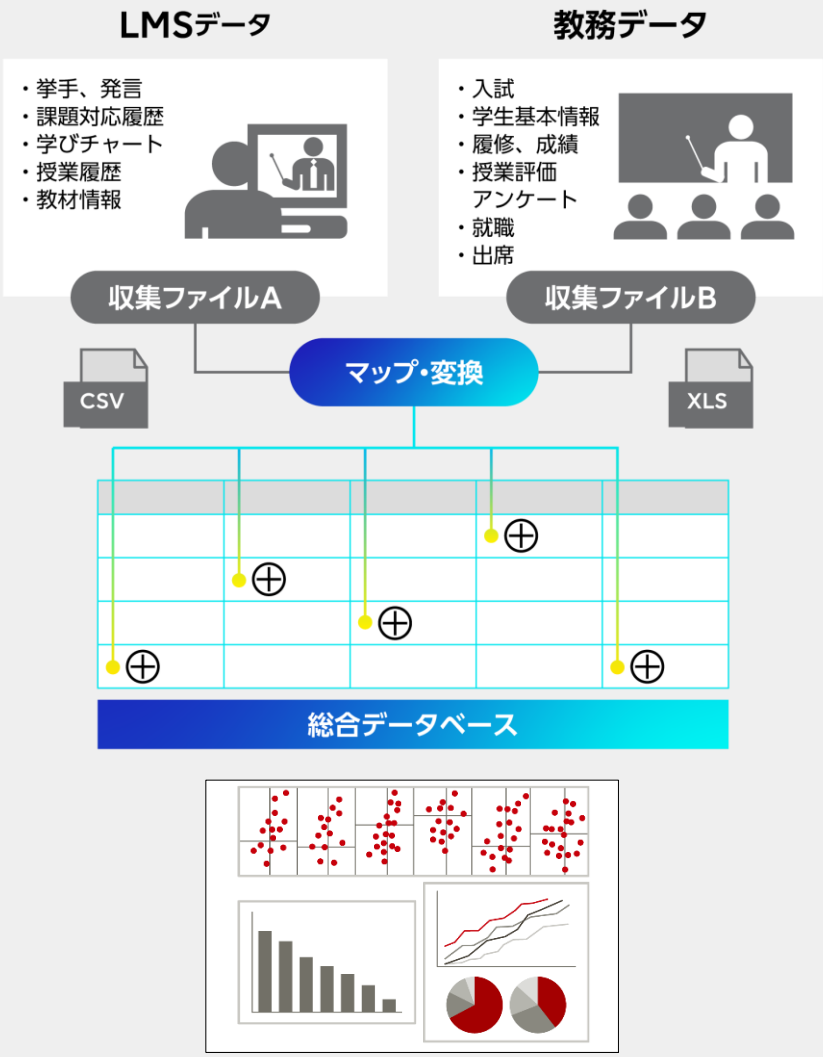
大学ではICTツールの導入が加速し、対面授業に加えてオンライン授業やオンデマンド教材の活用など、多様な学修形態が取り入れられるようになりました。その結果、学生の授業参加意欲や課題への対応履歴、オンラインテストの結果など、**様々な学修データを容易に収集**できるようになりました。

これらの学修データを活用することで、**学生一人ひとりに最適化された学びやサービスの提供が可能**になります。さらに、学修データは教育の質向上や学生募集の改善、研究活動の効率化への活用など、**大学経営においても重要**な情報源となります。

例えば、学生の学修傾向から早期離脱リスクを予測し対策を講じることで、退学率の抑制につなげることができます。また、研究者の論文発表や研究費獲得状況の分析により、研究活動の活性化に向けた施策立案を推進できます。さらに、過去の入試データや広報活動の効果測定、各部署の予算執行状況などを分析することで、入試広報戦略の最適化や経営資源の効率的な配分など、大学経営全般にわたるデータドリブンな意思決定が可能となります。

富士通Japanは、安定稼働で業務を止めない大学教務ソリューションや全学利用に最適な学修支援ソリューションに加え、両システムから得られるデータの統合・分析を支援する統合データベースを提供します。これにより、可視化されたインサイトに基づく戦略的な「大学IR（Institutional Research）」の推進を支援します。

富士通Japanはこれまで培ってきたデータ分析に関する知見と技術力で、教育の質向上や研究活動の改善、そして持続可能な大学経営を目指した**データに基づく大学改革の実現に貢献**します。



成績と非成績データの相関を分析したイメージ

Fujitsu 文教ソリューション　大学IR
https://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/education/campus/management/

小中高　社会

子どもたちの未来のために
図書館を活用した地域一体型の教育

公共・学校図書館の連携による読書機会の創出

国や自治体は子どもの読書活動推進に向けて計画を策定し取り組んでいます。しかし学校図書館図書標準*1の蔵書数を満たす学校や学校司書が配置されている学校の割合は、共に7割以下*2であり、子どもたちが触れる本や現場の人員は依然として不足している状況です。

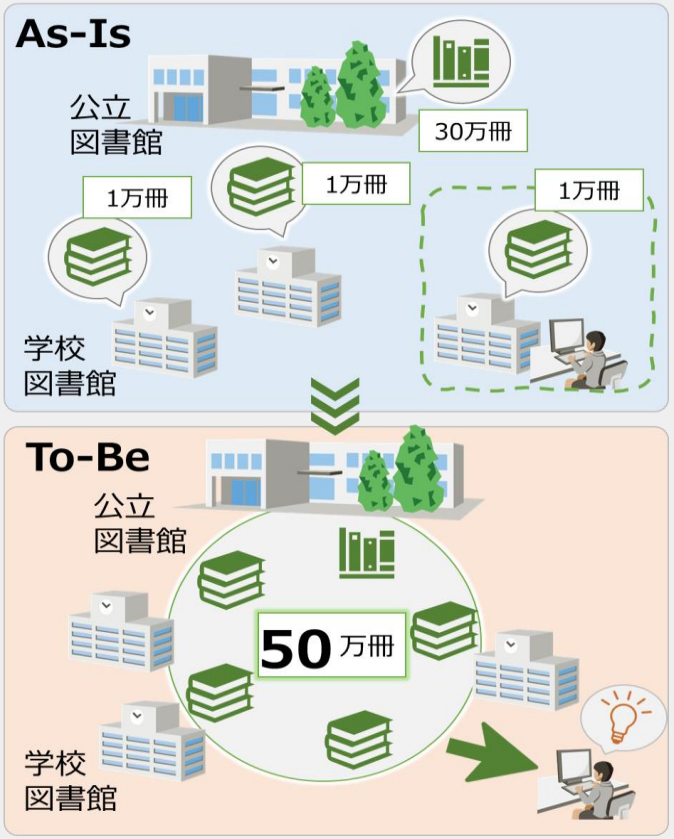
富士通Japanは、学校と公共図書館のシステム連携によって、これらの課題解決に取り組んでいます。システム連携により、子どもたちがアクセスできる本の範囲が他校の蔵書、さらには公共図書館の蔵書まで広がります。**物理的な蔵書数を増やす方法でなくこのようなバーチャルな仕組みで、子どもたちが出会える本の冊数を飛躍的に伸ばしています。**システム連携は、先生や司書の業務負担軽減にもつながります。先生が授業で活用する本の選定を行う際、学校・公共図書館の司書との連携は重要です。システム連携を導入したお客様はこれらの効果を実感しています。

この連携の仕組みを導入した山口県田布施町では、学校図書館の蔵書数が十分とは言い切れず、児童生徒の読書ニーズに迅速に対応できていませんでした。また、蔵書管理は台帳や表計算ソフトによる手作業で行われており、貸出・返却業務の負担が大きくなっていました。システム導入後、**子どもたちがアクセスできる本の冊数は10倍以上に増加し、学校現場の負担も軽減されています。**

富士通Japanは、今後も革新的な技術とサービスを通じて、子どもたちの読書活動推進に貢献していきます。

*1 学校図書館図書標準：公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準として、平成5年3月に定めたもの

*2 文部科学省. 令和2年度「学校図書館の現状に関する調査」の結果について
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/1410430_00001.htm



公共・学校図書連携イメージ

子どもたちの未来のためにデジタル田園都市国家構想交付金で図書教育のさらなる充実を図る山口県田布施町の取り組み
https://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/education/social/case-studies/lib-tabuse/

大学

大学基幹システムの将来

香川大学×富士通Japanの共同研究
教務データを連携・活用した内製システム開発によるDX推進

香川大学では「デジタルONE戦略」*1に基づき、DX推進研究センター*2を設立し、ローコード／ノーコードツール*3による業務システムの内製開発に代表される、様々なDX推進の取り組みを実施されています。

同センターではさらなるDX推進を目指し、基幹システムの1つである教務システムに富士通Japanの「Campus-Xs」を採用し、教務システムのデータを活用した内製システム開発の実証を目的に共同研究を開始しました。

本研究の成果の1つとして、「Campus-Xs」の保有する教学データを可視化した大学ダッシュボートを開発しました。このダッシュボートでは、API*4とローコード／ノーコードツールを用いて、データの抽出・加工とダッシュボートへのデータ投入をすべて自動化しました。これにより、データに基づく迅速な経営判断や教育支援の実現にむけて、「Campus-Xs」のデータを容易に取得し、リアルタイムに活用できることを検証しました。また、開発期間は実質約2ヶ月と非常に短期間で実現しています。

従来は、大学独自の業務やニーズに対応するには、費用をかけてカスタマイズを行うことが必要でした。しかし本研究の仕組みを使えばカスタマイズを行うことなく、必要に応じてスピーディに対応することができます。富士通Japanは、今後もこのような取り組みを通じて大学のDX推進を支援していきます。

*1 デジタルONE戦略：「デジタルの世界で1つの大学になる」ために、デジタル化をこれまでにないレベルにあげ、教育、研究、運営の質的向上とそれぞれの業務の効率化を進める取り組み。

*2 DX推進研究センター：内製システム開発によって業務改善を推進する、教職員、学生、民間企業の出身者で構成される従来の情報システム部門とは別に設立された組織

*3 ローコード／ノーコードツール：プログラミングの専門知識がなくても、視覚的なインターフェースや簡単な記述を用いてアプリケーション開発ができるツール

*4 API：ソフトウェア間の連携を容易にする仕組み

上：共同研究に関わった香川大学の皆さんと富士通Japanの開発メンバー
下：「Campus-Xs」のデータを抽出して作成した大学ダッシュボード

Fujitsu 文教ソリューション　Campus-Xs
https://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/education/campus/business/campus-xs/

大学ソリューション　導入事例
https://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/education/campus/case-studies/

社会

「Webギャラリー」で収蔵品の魅力を最大限に

デジタルアーカイブシステム「Musetheque（ミューズテーク）」

博物館や美術館ではこれまで来館者向けに各種展示会を行ってきましたが、展示スペースの制約から、展示される機会のない収蔵品も多く存在するという課題がありました。また貴重な郷土資料などを保存していても、閲覧の機会そのものがありませんでした。

デジタルアーカイブシステム「Musetheque（ミューズテーク）」は、収蔵品を検索できる情報公開システムです。その特長である「Webギャラリー」によりこれらの課題を解決します。

「Webギャラリー」は**テーマやストーリー性を持たせた仮想的な展示を短期間で作成・公開することが可能**です。収蔵品を単体で情報発信するのではなく、関連のある複数の収蔵品に解説を加えて展示することで、**各収蔵品に対する新たな視点からの発見や感動を利用者に提供**し、さらなる魅力や価値の向上につなげることができます。また、過去に公開したギャラリーも遡って見ることができます。

実際の**展示に出ることのない多くの収蔵品の魅力を最大限に伝えられることは館そのものの価値を向上**させ、利用者サービスの向上や学芸員のモチベーションを高めることに貢献します。「Webギャラリー」は自宅からの鑑賞に留まらず、**教育現場や図書館・公文書館、企業などにおける活用に広がる**ことが期待できます。

さらに「Musetheque」は**博物館・図書館・公文書館などの複数館での共同利用に対応**しており、これによりMLA連携*を実現できます。例えば、他機関の収蔵情報も活用した「Webギャラリー」を提供することで、**地域のプレゼンス向上やシビックプライド（市民の都市・地域に対する誇り）醸成**に寄与できます。

*MLA連携：ミュージアム（Museum）・図書館（Library）・文書館（Archives）の連携のこと。それぞれの頭文字をとってMLAと呼ばれる。

「Webギャラリー」の画面イメージ

デジタルアーカイブソリューション
https://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/education/social/museum/

デジタルアーカイブ連携
https://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/education/social/library/mla/

鳥取県立図書館様　導入事例
https://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/education/social/case-studies/public-library-archives/index.html

小中高　社会

データ連携で紡ぐ子どもの未来 ～佐渡市の挑戦～

AIとデータ連携が実現する子ども・家庭支援の新モデル

佐渡市では、子ども支援体制の強化に取り組んできましたが、支援の多くが当事者や学校からの相談、通報が前提となっており、**早期発見が課題**でした。また、**虐待や貧困の連鎖を防ぐには、現世代に対して、福祉部局と教育部局が連携した切れ目のないアウトリーチ型支援が必要**です。

こうした課題に対応するため、佐渡市と富士通および富士通Japanは、こども家庭庁の**「こどもデータ連携実証事業」**への採択のもと、データを活用した支援モデルの構築に取り組みました。**教育・保健・福祉の各分野を横断するデータを連携し、AIを活用してリスク分析を行う「こども統合データベース」**を整備し、プライバシー保護に配慮しながら、支援が必要な家庭を分析する仕組みを構築しました。

佐渡市では早期に信頼できる第三者との関わり創出が困難の連鎖を断ち切ることにも効果的であると考えています。**「こども統合データベース」による分析を通じて支援の必要性が可視化され、現場での意思決定が円滑になり、関係者間の共通認識形成にも寄与**しました。最近では、学校との情報共有を密にし、支援体制との連携によって、子どもへの支援が円滑に進む事例も生まれています。また、**あらかじめデータが集約されていることで、相談・通告時の初動が大幅に向上**するという効果も見られています。

佐渡市と富士通・富士通Japanは、こども統合データベースを活用した**持続可能な支援モデルの確立**を目指します。さらに、**得られた知見を全国展開可能なモデルへと発展**させることを視野に入れています。また、職員異動による支援の断絶を防ぐため、データを活用したノウハウの蓄積に取り組むとともに、教育や地域資源を活用した重層的なサポート体制の強化にも努めていきます。

上：前列左から：佐渡市 土賀氏、木下氏、田村氏
　　後列左から：佐渡市 余湖氏、富士通 中西氏、
　　佐渡市（当時、富士通Japanより出向）桃原氏
下：データ連携・分析実証のイメージ

こどもデータ連携の取り組みの推進
https://www.cfa.go.jp/policies/kodomo-data/

【こども家庭庁 実証事業事例】データ連携で実現する佐渡市の持続可能な子ども・家庭支援
https://www.fujitsu.com/jp/microsite/fujitsutransformationnews/2024-09-19/01/

小中高

教育DX推進に向けた人材育成（山梨県教育委員会）

学校現場のDXを知り自分ゴトとするワークショップ

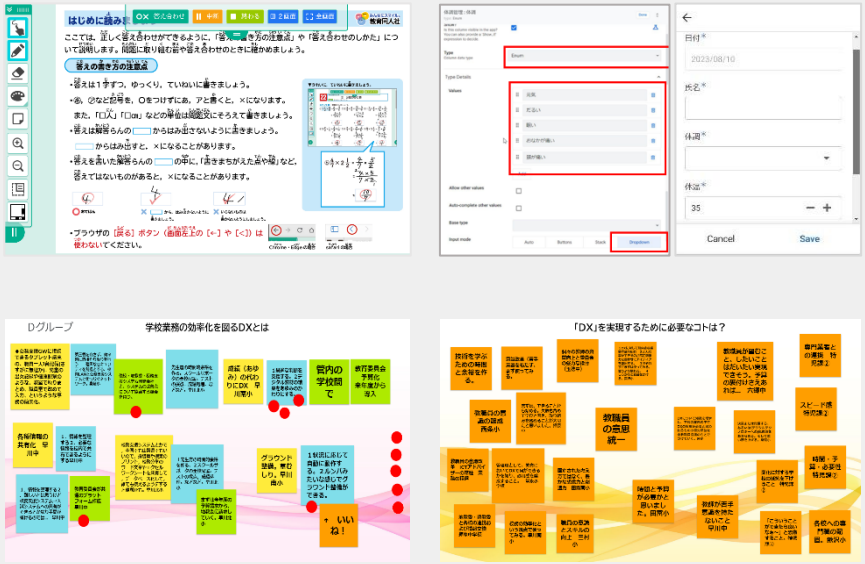
山梨県教育委員会では2023年4月より、学校現場への「文書半減プロジェクト」に取り組まれています。**ねらいは先生方の負担軽減と子どもたちに向き合う時間の確保**です。国や外部からの収受文書に関して仕分けを行った結果、プロジェクト開始2週間で文書量を開始前のおよそ半分に削減*1できました。

富士通Japanは、プロジェクトがその先に目指す現場の働き方改革および山梨県デジタルトランスフォーメーション推進計画に基づき、**学校現場のDX推進のヒントとなるワークショップ**を実施しました。

ワークショップは、オンライン形式で1回5時間のプログラムを全8回行い、延べ494名の先生にご参加いただきました。オンライン形式で実施したことで、他の市町村や校種の先生同士が交流でき、DXに関する相互の認識を高める機会となりました。学校におけるDXの推進方法について、他の教育現場の事例やデジタル技術のデモンストレーションを通じて学び、現在の学校現場が直面している課題を共有しました。**これらの課題解決のために、デジタル技術を活用したアイデアを対話を通して創出しました。アイデアの発想には、富士通独自開発の「デジテク・カード*2」を使用し、参加者のインスピレーションを喚起しました。**実施されたプログラムは、教育工学に基づき、個々の変革段階に合わせた内容で構成されており、DXへの理解を深めることに貢献しています。

先生方からは、次のような声が寄せられました。
「今の時代に合う学びを継続し子どもたちに寄り添える教員集団でありたい」
「ワークショップ内でご紹介された“ローコード”などのツールを実際に活用したい」

富士通Japanは、今後も教育現場の課題解決に向けて、様々なご提案やサービスを提供していきます。



上：デジタル技術体験の画面イメージ（左：自動採点体験　右：ローコード体験）
下：ワークショップでの参加者のアウトプット

*1 2023年4月11日～4月28日までの14日間の状況
*2 実現可能性の高いアイデアを楽しく発想できる「デジテク・カード」が、IAUD国際デザイン賞金賞を受賞

デザイン賞金賞を受賞
https://www.fujitsu.com/jp/about/businesspolicy/tech/design/activities/digitechcard/index.html

大学　社会

「神山まるごと高専」と富士通のコラボ活動、3年目へ

2023年4月に開校した高等専門学校の学生との活動がさらに活発に

当社は2023年4月に徳島県神山町に開校した「神山まるごと高専」の学費無償化を目的としたスカラーシップパートナーになりました。当校は「テクノロジー×デザインで人間の未来を変える学校」をコンセプトに運営されています。当社が支援する学生は1期生4名、2期生3名に加え、この春3期生4名を迎え、合計11名になりました。2024年度も課外時間を活用して様々な活動を実施してきました。その一例をご紹介します。

1. 学生によるピッチ大会

「富士通の魅力」と「新規事業」をテーマに、社員に向けてピッチを行い、フィードバックを受けました。その後の交流を通して共に刺激しあえる場となりました。

2. 時田社長との対談

富士通の変革への取り組みや「変わり続ける」理由など、学生は社長から直接話を聞き、理解を深め、楽しみながら経営トップとコミュニケーションをとりました。

3. 食品流通業界とのワークショップ

食品流通業界の方や学生と共に「10年後の一次産業を神山町起点で考える」をテーマにワークショップを企画し実施しました。10代の学生と業界で専門的に活動している大人との協働イベントは、社会人にとっても学びの場となりました。

上記以外にもの取り組みとしては「**未来の語り場**」（30ページ参照）を学生の企画で富士通社員の親子向けイベントとして実施するなど、積極的に活動しました。ある学生は1年間を振り返り「**いろんな人に出会って話して考えることができた。社会を見る視点が増え、視野が広がり、社会はどのようにまわっているのだろうかと考えられるようになった**」と語っています。

今後も学生と当社だけではなく、様々なステークホルダーの方々と共に、イノベーションを起こせるような**CO-Learning* の場づくり**を目指していきます。

上　：時田社長と対談する学生
左下：食品流通業界の方々とワークショップをする様子
右下：学生による社員向けのピッチイベント

*CO-Learning：共に学びあう、共同学習

神山まるごと高専
https://kamiyama.ac.jp/

富士通、神山まるごと高専のスカラーシップパートナーに参画、奨学金基金へ10億円を拠出
https://pr.fujitsu.com/jp/news/2022/12/12.html

神山まるごと高専生が気付いた、富士通が「変わり続ける」2つの理由
https://www.fujitsu.com/jp/microsite/fujitsutransformationnews/2025-02-04/01/

小中高　社会

社会の課題解決に貢献する人材育成

社員参加による小中高生向け教育支援プログラムの実施

富士通では社会貢献活動の取り組みとして、未来を担う子どもたちに様々な「教育支援プログラム」を提供しています。

「テクノロジーを使って地域の困りごとを解決しよう」は、**中山間地域や離島などの小規模校とオンラインで結び**、富士通グループ社員が授業を行うプログラムです。小学5-6年生を対象としており、児童が自分たちの住む地域の課題に対して、テクノロジーを使って解決方法を考え、そのアイデアを発表します。従来の知識伝達型ではなく、**「問題発見・解決能力」の育成を目指したアクティブラーニング型の授業を提供**しています。2024年度は地元のテレビ局や新聞社といったメディアから学校に取材が入るなど、先進的な取り組みとして注目されています。

「デザイン思考で考える富士通SDGsプログラム」では、未来社会を創造する力の育成を目指し、富士通が社会課題解決に用いているデザイン思考の体験を通じて、**身近にある課題を考える機会を提供**しています。オンライン開催の利点をいかして、出張授業では実施が難しかった全国の学校を対象にリアルタイムで授業を実施することができます。授業実施後には、生徒たちが地域の抱える社会課題を取り上げ、授業で学んだデザイン思考を活用して、**地元行政や地域に向けて解決策の提案に取り組んでいる学校もあります**。

他にも**「未来の語り場」では**、富士通社員がこれからの**未来を担う世代（中高生）と共に同じ目線に立ち**、「私」を主語にして**未来へ踏み出す一歩を考えるワークショップも実施しています。**（30ページ参照）

これらの授業に富士通グループ社員が講師として参加し、2006年から累計約1,160校、約64,800名の小中学生を対象に実施しています。

これからも、富士通は教育現場のニーズにあった「教育支援プログラム」を通じて、社会に貢献していきます。

授業の様子

教育支援プログラム
https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/community/society/education/

大学

世代や文理の枠を超えた、「AI倫理の産学連携」

教育・研究機関と連携しAI倫理の研究開発・人材育成を推進

AI（人工知能）は人間の知的活動を大幅に向上させる有望な技術と期待されています。一方で、利用用途などによっては思わぬリスクが発生する可能性があり、AIの開発や利用において倫理課題を低減するための重要な観点である「AI倫理」への関心が高まっています。

AI提供者である富士通は、教育・研究機関およびこれからの未来を創る若い世代と共に、**文理の学問領域や世代の垣根を越えて横断的にAI倫理を実践しています**。このような「AI倫理の産学連携」は、すべてのユーザーが安心してAIを活用できる社会を創出するための大切な活動です。以下にいくつかの例をご紹介します。

・慶應義塾大学との産学連携

2022年、同大学の知的財産法講義にて「AI倫理の講演」「AI倫理のインターンシップ」を実施しました。AI倫理を実現するための法の効用、倫理リスクを技術的に発見することの有効性について、**法学と工学という異分野メンバーによる研究**を実現しました。

・清泉女学院中学高等学校との産学連携

同校では、有志の生徒たちがAI倫理課題について議論し政府に提言を行う「AI倫理会議」を毎年開催しています。2023年に富士通はこの会議内にて出張講義を行いました。また会社見学も開催し、**若い世代とのインタラクティブな交流**を実現しました。

若いユーザー世代を含め、誰もがAIについて正しい知識を持ちAIの利便性を享受できる社会を実現するために、富士通は**今後も「AI倫理の産学連携」を推進**していきます。

上：慶應義塾大学とのインターンシップ報告会にてコメントを述べられる同大学の君嶋 祐子 教授
下：会社見学に来られた清泉女学院中学高等学校の生徒のみなさま

「AI倫理の産学連携」で世代や文理の違いを超える
～慶應義塾大学、清泉女学院中学高等学校それぞれとの実践～
https://www.fujitsu.com/jp/microsite/fujitsutransformationnews/2023-12-07/01/

大学

富士通Japan 教育分野の知見を集結したDXコンサルティングを始動

公立大学法人 名古屋市立大学向け
知見と実績で導く教育機関向けDXコンサルティング

名古屋市立大学は、社会の急激なデジタル化に対応するため、2024年度より「DXの推進」を掲げ、大学組織全体の変革に向けて戦略的に指揮を執る本部組織や、実働組織であるDX推進課を設置しました。

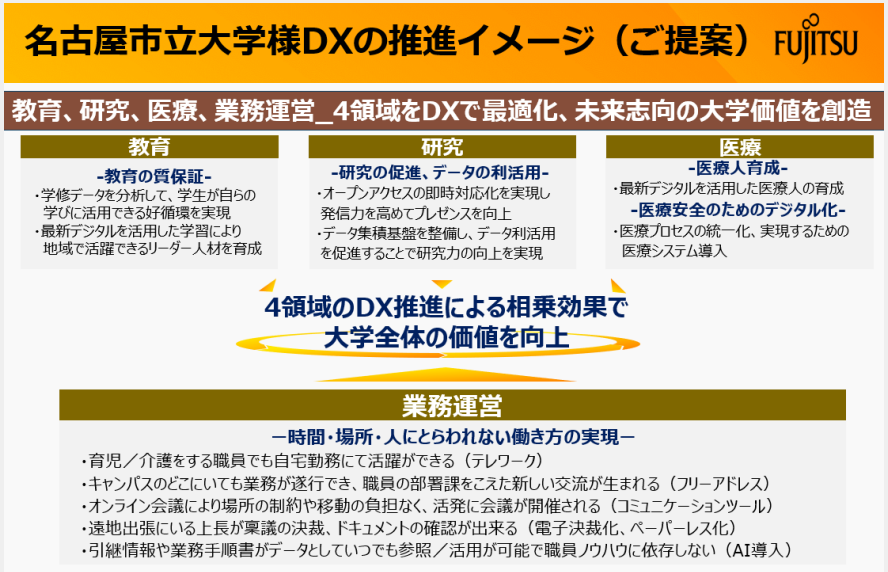
同大学の新体制にて重要課題と捉える教育・研究・医療・業務運営の4領域におけるDX推進にあたり、当社は**戦略面・技術面から支援するパートナーとして選定され、各領域における課題抽出、具体的な施策立案からロードマップ策定まで、一貫したコンサルティング支援を実施**しました。

本コンサルティングで推進した業務は以下のとおりです。

1. 教職員・学生へのヒアリングやアンケート調査を通じて**現場ニーズを可視化**
2. 現状のシステム整備状況や利用における**課題抽出**
3. 執務環境の改善など、**ユーザー視点での価値検証（Proof of Value）を実施**
4. 組織・業務における変革、業務プロセスのデジタルシフトなどの**施策立案**
5. **現状課題と将来の目標、両方を見据えたDX推進のロードマップ策定**

全体最適の視点に立った施策立案が高く評価を受け、特にクラウドストレージ整備、コミュニケーション基盤整備、認証/セキュリティ強化は優先的に対応すべき検討事項であり今後のDX推進における核として、業務効率化と教育の質向上に大きく貢献するものと期待されています。

今後も、このロードマップに基づき、同大学の企画立案とDX環境整備を継続してサポートします。これらの取り組みを通じて、同大学の持続的な成長と社会への貢献につなげていきたいと考えています。



上：プロジェクト開始時に当社が提案したDX推進イメージ
下：第一回　大学DX推進本部会議の様子

公立大学法人 名古屋市立大学
https://www.nagoya-cu.ac.jp/

小中高　大学　社会

AIによる探索サービスの社会実装

新しい学習支援の創出を目指す青山学院大学との共同研究
～セレンディピティ、偶然から始まる本・学びとの出会い～

従来型の図書館システムはキーワードマッチング方式で高速検索を行い、対象を絞り込むことにより、条件に合致する資料を見つけ出すことを追求してきました。

新たに開発した蔵書探索AIは文献検索の際に本のタイトルや著者が定まっていなくても、**日常的に使っている言葉の入力で本を探索**できます。また探索結果として表示された本を選択し、さらに**AI探索を繰り返すことで関連する本への発散的なアプローチ**ができる特徴があります。これは書誌データをはじめとする資料情報をAIが学習して関連度を評価し、評価値の高い本を提示する仕組みとなっているためです。利用者は求める本へと対話的・拡散的にAIの支援に導かれ、曖昧なニーズからでも資料に辿り着くことができるようになっているので、最終的には潜在的な興味関心から顕在化した資料を選び取ることにつながります。選んだ本は図書館システムから予約できるため、利用者に**今までにない読書のきっかけを提供**できる仕組みとなっています。

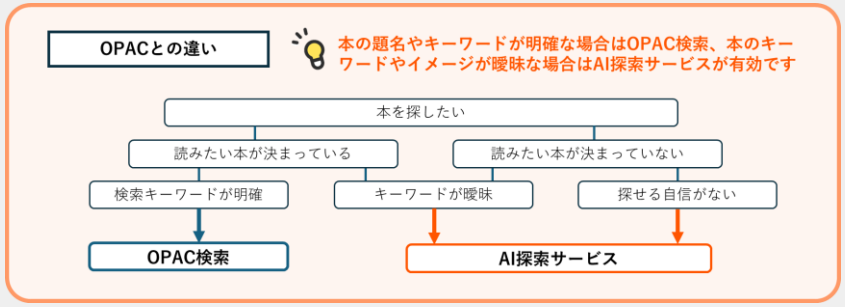
このAIによる蔵書探索は2024年1月の横浜市立図書館を皮切りに、沖縄県、福岡市など各地で次々とサービス提供が始まっています。中長期的な住民サービスとして採用を検討する自治体からも多数相談を頂いているため、共同研究成果をより幅広く社会実装できるようにクラウド版の提供も計画しています。

本プロジェクトではより使い勝手の良いAIサービスの開発と、近年急速な進化を続けるLLM*の活用、新たなAIとの連携など、教育分野における価値創出を目指して共同研究を続けていきます。

*LLM：大規模言語モデル

共同研究参画者：青山学院大学 革新技術と社会共創研究所　副所長　野末 俊比古

https://www.aoyama.ac.jp/research/research-center/project-research-inst/itst



富士通Japanと青山学院大学、AIを活用した蔵書探索システムを開発し、横浜市立図書館に導入
https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000221.000093942.html

大学図書館の次世代型サービス実現に向けた青山学院大学との共同研究～AIを活用した学びの支援～
https://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/education/seminar/csken-library-202107/

小中高　社会

安心安全な鉄道利用に向けた「エキマトペ」

共創デザイン×テクノロジーによるDE&I*1 の理解促進を目指して

エキマトペは、**駅にあふれる音を視覚的に表現する装置**です。AIを使って、電車の発着音やドアの開閉音といった環境音やアナウンスの音などを識別し、文字や手話、オノマトペ*2 のアニメーションで表示します。毎日の鉄道利用が楽しくなるような体験を目指して、**川崎市立聾学校の生徒たちと、富士通、東日本旅客鉄道（JR東日本）、大日本印刷（DNP）で一緒にアイデアを考え、開発**しました。

マイクで集音した駅の音を、AIでリアルタイムに分析し、ホーム上に設置された自動販売機上部の専用ディスプレイに表示します。定型アナウンスは、文字と同時に事前収録した手話動画と共に表現され、オノマトペは状況が伝わるような手書きアニメーションで表現されます。2022年度の実証実験では、駅社員による非定型のアナウンスを富士通の「Fujitsu Software LiveTalk」でリアルタイムにテキスト変換し、DNPの「感情表現フォントシステム」を通じて、文章の内容に適した感情豊かなフォントで表現しました。2025年の実証実験では、手話動画を大きく画面上に表示させ、国際手話を追加し、日本手話（JR東日本のろう者の社員が出演）への変更など、よりわかりやすく見やすいデザインを取り入れました。

エキマトペを通じて、「障がい」について知り、考えるきっかけを提供するとともに、**2025年に東京で開催されるデフリンピック*3の機会を活かして、DE&I の理解促進**を目指します。

*1 DE&I：ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョンの略
*2 オノマトペ：様々な状態や動きなどを音で表現した言葉（擬音語）
*3 デフリンピック：きこえない・きこえにくい人のためのオリンピック（国際的総合スポーツ競技大会）

上：ディスプレイ表示イメージ
中： 2025年 JR上野駅
下：エキマトペの仕組み

エキマトペ
https://ekimatopeia.jp/

安全安心な鉄道利用に向けた「エキマトペ」の実証実験を開始
https://pr.fujitsu.com/jp/news/2022/06/9.html

違いに気づき、寄り添う気持ちを広げたい
～エキマトペ制作メンバー鼎談～
https://www.fujitsu.com/jp/about/businesspolicy/tech/design/activities/ekimatope/index.html

小中高

スポーツの楽しさを伝え、互いに学び合う心を育む

Fujitsu Sports
「児童を対象としたスポーツ教室への講師派遣」

富士通アメリカンフットボール部「フロンティアーズ」および**富士通女子バスケットボール部「レッドウェーブ」**は川崎市に認定された**「かわさきスポーツパートナー」**として、千葉市に拠点を置く**富士通陸上競技部**は**「千葉市トップスポーツ連携推進事業」および「千葉県 ちば夢チャレンジかなえ隊派遣事業」**の一環で、それぞれ地域の児童教育を支援しています。

2010年に川崎市で始まった「ふれあいスポーツ教室」では、現役のアスリートが体育の授業に特別講師として参加しました。毎年オフシーズンの恒例行事として、夏と冬の年2回、計16校程度の小学校を訪問しています。

千葉市ではスポーツ人口の増加を目指し、千葉県内で活動するトップスポーツチームが学校を訪問する「トップスポーツ連携推進事業」を実施しています。同市で活動している陸上競技部から小学校に選手を派遣し、走り方教室を行っています。

富士通のアスリートは子どもたちに、**身体を動かす楽しさや仲間と一緒に競い合う喜び**を伝えています。学校の先生からも「普段あまり表情が出ない児童が楽しむ姿を見られてとても良かった」、「楽しみながら、体を動かすコツをつかむことができた」と評価を頂いています。

困難にぶつかっても簡単に諦めず、勇敢にチャレンジする心をもった子どもたちが育つことを願って、富士通はこれからも活動を継続していきます。

上：フロンティアーズ「ふれあいスポーツ教室」指導風景
中：レッドウェーブ「ふれあいスポーツ教室」指導風景
下：陸上競技部「千葉県 ちば夢チャレンジかなえ隊派遣事業」指導風景

Fujitsu Sports 挑戦に終わりはない
https://sports.jp.fujitsu.com/

YouTube
公式チャンネル

富士通の文教ソリューションYouTubeチャンネルでは、
サービス紹介の動画をはじめ、
お客様の活用事例動画をご紹介しています。

FujitsuEducation
https://www.youtube.com/user/FujitsuEducation

コラム

対話を通じ未来への力を醸成する取り組み

富士通 未来の語り場プロジェクト

未来の語り場プロジェクト ～生徒と共に創る未来～

私たちが生きる現代は、先の見えない時代といわれています。企業や自治体は、未来の課題に挑み、解決していく大きな使命を担っています。しかし、その未来を形作るのは、私たち大人だけでよいのでしょうか？

富士通グループは、社会が直面する課題について生徒と**共に**考え、未来を語り合うことで「未来を生きる力」を育むことを目的とした**「未来の語り場プロジェクト」**を推進しています。

生徒と共に未来を語る

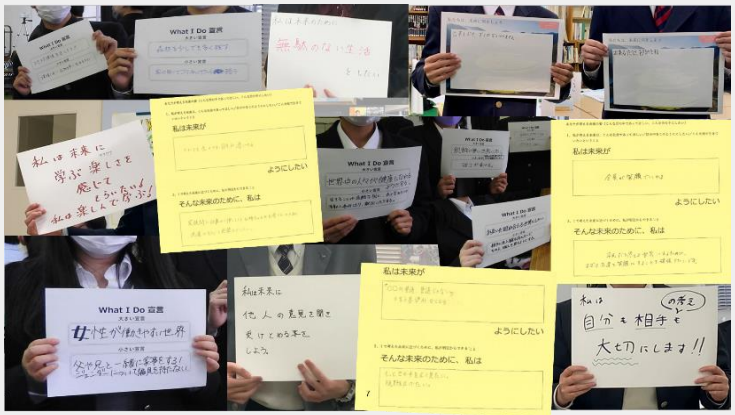
「未来の語り場プロジェクト」では、生徒と対等な目線で語り合い、生徒自身が未来に向けた第一歩を踏み出せるようサポートします。富士通の社員が自らの「パーパス」を軸に、学校の想いや地域の課題も丁寧にくみ取りながら、対話の場を創り上げています。

このプロジェクトは、2021年9月に富士通Japanからスタートし、これまでに **全国46校・約3,500名** の生徒と未来について対話を重ねてきました。そして、2023年度には初めて自治体を巻き込み、2024年度は自治体との連携プロジェクト数を拡大し、地域全体での対話活動も行ってきました。

地域と学校が共創する新たな取り組み

2024年10月には、DXプロデュース人材（20ページ参照）が派遣されている山梨市で、自治体と中学校が連携した「未来の語り場」を開催しました。大学進学を機に首都圏へと転出する生徒が多い現状を踏まえ、**「地域への誇り（シビックプライド）」を見つめ直す**ことをテーマに、生徒一人ひとりが大切にする価値観を軸にした地域課題解決を検討しました。この取り組みは、多くの好評を得ただけでなく、市長・職員・富士通に対して生徒自らプレゼン動画を作成し自分たちの思いを表現したり、保護者との意見交換を通じてアイデアのブラッシュアップを図ったりするなど、**マインドチェンジを促すきっかけ**となりました。

富士通グループは、これからもより多くの「語り場」を生み出し、日本社会の課題解決に貢献していきます。



上：各校での対話シーン
下：生徒の「未来への一歩」

「未来の語り場」プロジェクト
https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/community/society/education/dialogue/

参加デザイナーが語る「未来の語り場」プロジェクト
https://www.fujitsu.com/jp/about/businesspolicy/tech/design/activities/katariba/index.html

地域創生とDX　～神恵内村のデジタル化戦略と未来展望
https://www.fujitsu.com/jp/microsite/fujitsutransformationnews/2024-12-12/01/

コラム

未来に向けたチャレンジ

職場における実務経験やキャリア教育の場を提供

テクノロジーによる価値創造に挑む富士通の「現場」を学生が経験

厚生労働省の調査*によると、新卒大学生の約3割が3年以内に離職しており、背景には学生の就業に対する正しい理解の不足などが挙げられています。

富士通では早くからインターンシップの実施に力を入れており、毎年300名以上の学生を受け入れ、職業意識の向上や職業選択に役立つ機会を提供しています。

特に2024年度は、学生に富士通の一員としてより深く業務に参画いただくため、職種やテーマの選択肢を大幅に拡大した有償型のインターンシップを実施しました。インターンシップ参加者は、研究開発・ソリューションエンジニア・セールスなど、各職種の実際の業務に取り組み、具体的な活動や求められるスキル・マインドの理解を目指しました。

■Fujitsu Professional Internship （有償型インターンシップ）

学生の専門性をいかし、実ビジネスに挑戦することで、さらなる成長やキャリア形成を支援するプログラムとして実施しています。
インターンシップ参加者は、富士通と雇用契約を結び、数か月程度、各領域のスペシャリストと共に実ビジネスに取り組みます。よりリアルなビジネスの場で専門性を発揮することで、その後の研究活動やキャリア選択にいかしていただいています。

*厚生労働省の調査：厚生労働省「新規学卒就職者の離職状況（令和3年3月卒業者）を公表します」より（ https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000177553_00007.html ）

上：インターンシップの概要
下：Professional Internship 成果発表の様子

Fujitsu Event/Intern
https://fujitsu.recruiting.jp.fujitsu.com/intern/#section-tab

ビジネスの現場での、実践型育成プログラム

社会課題解決に貢献できる、データサイエンティストを育成する「データサイエンス部」

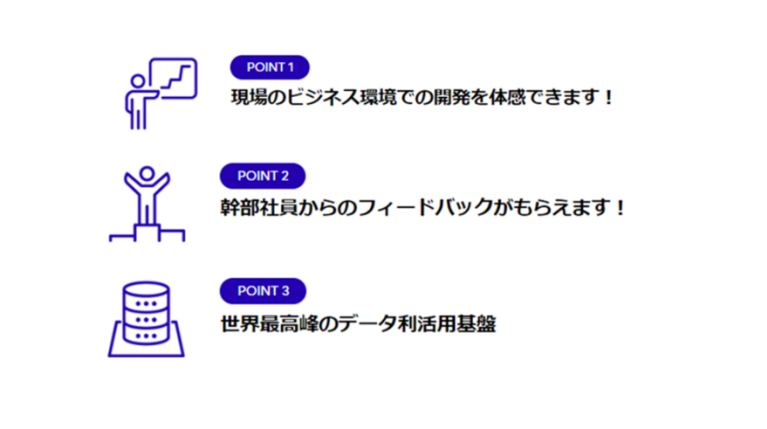
データが競争力の源泉となる現代社会において、企業は、データの統合・活用を通じて新たな価値を生み出す、データドリブンマネジメントが求められています。

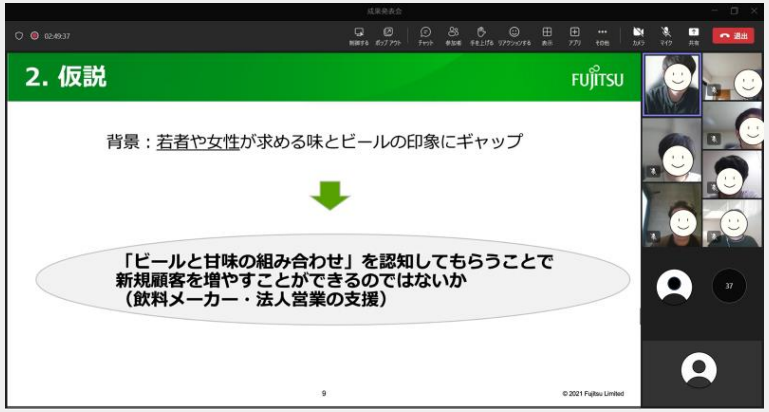
データドリブンマネジメントを実践するうえで欠かせないデータサイエンティストを育成するため、富士通は2022年に「データサイエンス部」を開校しました。2024年度には24名が参加し、AIの作成やデータの分析など、プロセスの一部を担うのではなく、**データの収集・整形からビジネス価値の設計・提供まで、全体を担えるデータサイエンティスト育成**を目指して学生向けにハッカソンを実施しました。

参加した学生は、社員とのコミュニケーションを通じて、自分の取り組むテーマが本当に社会課題の解決につながるのかを考え、何度もブラッシュアップを繰り返しました。最後の成果発表では、取り組むテーマに対し、データを使ってどのような価値を提供できるのか発表し、フィードバックを受けました。

お客様や社会が抱える様々な課題を参加学生自らの調査を通じて発見し、**実データに基づく分析**を通じて仮説立案・解決策提案を行うため、専門知識の有無だけでなく、自分ごととして自身に落とし込むこと、そこから**真に価値のあるアイデアを練り、実行する力**が求められます。

ビジネスの現場で活躍するデータサイエンティストが育成されることで、データドリブンマネジメントが広がり、様々な社会課題の解決につながることが期待されるほか、参加した学生が得た新たな気づきや業務の経験は、その後のキャリア選択にもいかされています。





上：プログラム概要
下：オンライン成果発表の様子

データをビジネス価値につなぐ「真のデータサイエンティスト」育成のカギ
https://www.fujitsu.com/jp/microsite/fujitsutransformationnews/2023-07-18/01/

Fujitsu Event/Intern
https://fujitsu.recruiting.jp.fujitsu.com/intern/#section-tab

コラム

富士通グループの挑戦

移住型「地域デジタル人材」派遣でお客様・地域・日本を変革！

富士通Japanによる地域移住型DX変革プログラムの挑戦

富士通Japanは、豊かで持続可能な地域社会の実現に向けて、社員を自治体や教育機関へ派遣*1し、**地域の内側からDXによる課題解決の実現を目指します**。

本取り組みでは、公募で選ばれた社員が「地域デジタル人材」として**移住し、自治体や教育機関の要職に着任**します。地域と同じ目線で共に考え、DXのスキル・ノウハウを駆使し、ビジョンマップやDX計画の策定などを通じて地域課題を解決します。

また、地域デジタル人材の円滑な活動推進のため、派遣地域間の情報共有会、専任バックアップなど、富士通Japanとして一貫した体制を構築しました。

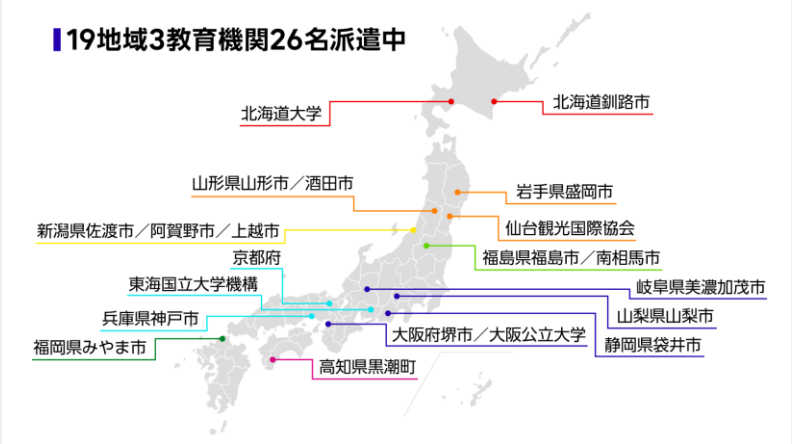
2021年から始めた本取り組みは現在19地域3教育機関26名に拡大し、今後も増加予定です。将来的には日本全国に広げていきたいと考えています。

【地域課題解決の取り組み例】

自治体デジタル化推進計画策定（高知県 黒潮町）
自治体の総合計画などをベースに職員から現状の課題を抽出し、デジタル化推進計画を策定、町のホームページにて公開しました。

地域DX × 産学連携（北海道大学）
自治体・企業と連携し、**プレコンセプションケア*2普及とDXを活用した地域課題解決**に取り組んでいます。教育機関・職域・自治体を対象に、健康リテラシー向上や妊娠前の健康管理を啓発し、アプリ開発やイベントを通じた動機付けを実施しています。

大学DXの推進（東海国立大学機構）
デジタルユニバーシティ構想の実現に向けた基本計画立案を支援しています。岐阜大学や名古屋大学から共同利用できるLMSの構築を推進しています。



上：地域DX人材の役割
下：DX人材派遣地域

*1 派遣：当社では出向などで対応しています。
*2 プレコンセプションケア：将来の妊娠や健康のために、日頃から自分の体を整えること

地域移住型DX人材
～地域DX人材と創る地域の未来～
地域DX人材プロデュース
https://www.fujitsu.com/jp/about/dx-production/region/

社内起業家育成と新規事業創出を目指すプログラム

「Fujitsu Innovation Circuit（FIC）」

新規事業創出プログラム「Fujitsu Innovation Circuit」は2021年11月より開始した**起業家マインド・スキルをもった人材の育成と新規事業創出を目指すプログラム**です。

本プログラムでは、創造的でオープンマインドな思考や革新的な問題解決力、挑戦するマインドを身につけた人材を数多く生み出すとともに、新規事業創出のプロセスを実践しながら学ぶ環境を整備することで、**「挑戦が当たり前」「挑戦する人を全力で支援する」**という企業風土の醸成を目指します。

起業家教育全米No.1のバブソン大学にて教鞭をとる**アントレプレナーシップ*1 准教授山川恭弘氏の全面監修**のもと開催される3ヵ月全11回のワークショップでは、講座・グループ実習・ビジネスアイデアプレゼンなどを通じて**イントラプレナー*2 に必要なスキル（共感力、失敗力、実行力、ビジョンを描く力など）を身につける**ことを目指しています。このワークショップは、富士通グループ全社員を対象に開始し、2024年からは社外の方も参加可能になりました。これまで累計**約1,200名を卒業生として輩出**しています。

また、新規事業創出への意欲とスキルを獲得した人材に対しては、自らの事業アイデアを成長させ、**事業化に向けて100%専任で活動できる環境と支援プログラム**を提供しています。現在、活動開始から3年が経過し、**6件が事業化**に至っています。

加えて、FICのプログラムを富士通のお客様も参加できるようにするなど、社外との共創を加速させる取り組みも進めています。

*1 アントレプレナーシップ：起業家精神
*2 イントラプレナー：社内起業家

Fujitsu Innovation Circuitの様子

富士通グループ新規事業創出プログラム「Fujitsu Innovation Circuit」
https://www.fujitsu.com/jp/innovation/fujitsu-innovation-circuit/

コラム

富士通グループの実践

富士通グループのキャリア形成支援

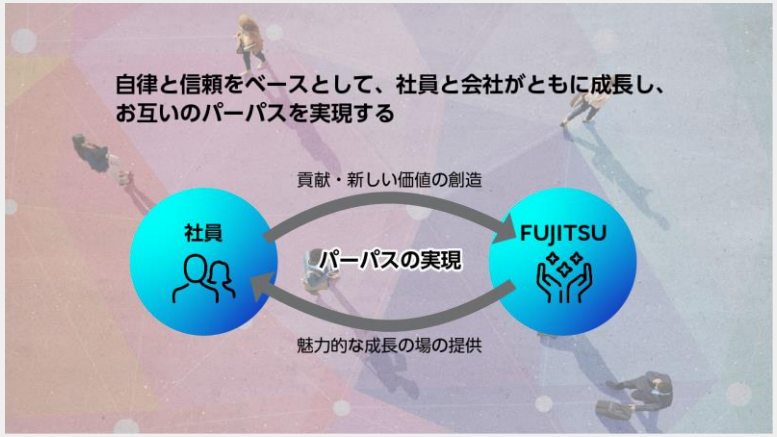
一人ひとりが成長しキャリア目標を実現するために

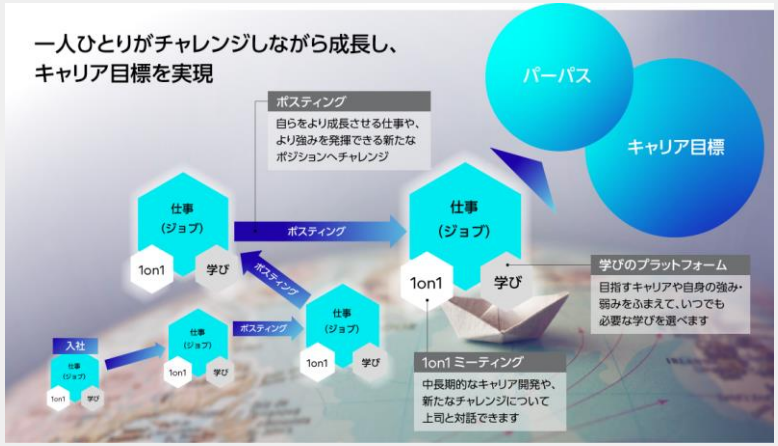
富士通グループのパーパスは、「イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていくこと」です。テクノロジーで社会やお客様の発展に貢献していくためには「人」が最も重要となるため、**多才な人材が社会やお客様の課題を解決するために目的を共有して俊敏に集い、社会のいたるところでイノベーションを創出することを目指しています。**

当社は、従業員一人ひとりの挑戦と成長を後押しする「ジョブ型人材マネジメント」の考え方に基づき、**社員のキャリアオーナーシップを支援するプログラム群を「FUJITSU Career Ownership Program（FCOP）」と名付け、全社員のキャリアオーナーシップの醸成を推進しています。**

キャリアオーナーシップ診断やキャリアワークショップで自らのキャリアの状態を把握したり考えたりする「キャリアオーナーシップの理解と浸透」、キャリアカウンセラーによるキャリア相談や上司との1on1による「キャリアの対話」、学びのプラットフォーム上で社内外の多様な学習コンテンツをいつでもどこでも受講できる「学びの機会提供」、社内ポスティング制度により富士通グループ社員全員がそれぞれ目指すポジションへの異動や昇格にチャレンジできる「挑戦の機会提供」など、一気通貫したキャリア施策を展開しています。

これにより、「自律と信頼」をベースとし、社員と会社は共に成長しながらお互いのパーパスの実現を目指します。





上：社員と会社の関係
下：社員一人ひとりのキャリア実現を支援する仕組み

Career & Growth Well-being
https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/education/

Financial Well-being
https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/financial-wb/

富士通グループの働き方改革

一人ひとりのWell-beingに向き合うDX企業としての働き方へ

2020年7月、富士通グループではニューノーマルにおける新たな働き方のコンセプト「Work Life Shift」を発表しました。
「働く」ということだけでなく、**「仕事」と「生活」をトータルにシフトし、Well-beingを実現するコンセプト**のもと、場所や時間に捉われることなく、お客様への提供価値の創造と自らの変革に継続的に取り組むことができる働き方の実現に向けて、人事制度とオフィス環境整備の両面から様々な施策を実施してきました。

実施する中で見えてきた課題や社員の声、アフターコロナも見据え、**2021年10月**、オフィスでのリアルなコミュニケーションの効果的な活用を組み合わせた真の**Hybrid Workの実現や、Lifeのさらなる充実などを目指し、「Work Life Shift 2.0」を発表**し、より進化した施策を展開しています。

1. Hybrid Workの実践とエクスペリエンス・プレイスへの進化

- 業務の目的に応じてオンライン／対面でのコミュニケーションを使い分けるHybrid Workを推進
- オフィスの中で研修やワークショップ、タウンホールミーティングを開催、オフィスを多様な体験ができる場へと転換

2. DX企業としての働き方の進化

- プロダクティビティ向上に加えクリエイティビティを高める働き方へ
- 企業や地方自治体とのコラボレーションを通じた課題解決の推進

3. WorkとLifeのシナジー追求

- 柔軟な働き方を活かしてLifeを充実させ、生み出される相乗効果により、社員一人ひとりのWell-being実現へ

Work Life Shiftにおける三本柱

一人ひとりのWell-beingに向き合うDX企業としての働き方へ
「Work Life Shift」の進化
https://pr.fujitsu.com/jp/news/2021/10/6.html

コラム

富士通グループの実践

富士通グループの未来を創る挑戦者のためのデジタル証明

Fujitsu Open Badges

富士通では、**誰もが自身のパーパス実現と成長のために、自ら学び続けることを奨励し、イノベーション創出やカルチャー変革、アップスキリング・リスキリングに挑戦している人たちへの応援が当たり前となるカルチャーの醸成を目指しています。**

その一環として、**ビジネス貢献やカルチャー変革につながるスキルや活動を社内外にオープンにアピールできるデジタル証明であるオープンバッジを推進しています。**これにより、自身の能力を客観的に評価でき、自信につながります。また、スキルを可視化することで、仲間とのコラボレーションや新たな挑戦が促進されます。

また、オープンバッジを発行するだけにとどまらず、**社内システムに連携させることで、個人が取得したオープンバッジを公開したり、個人が登録したオープンバッジを集計し、組織単位で社員のスキルを包括的に把握したりすることもできます。**これまでは見えなかった個人・組織の情報を表現することで、人材の可視化や活用、スキルアップの計画が立てやすくなり、共に学びあう文化の醸成を促します。

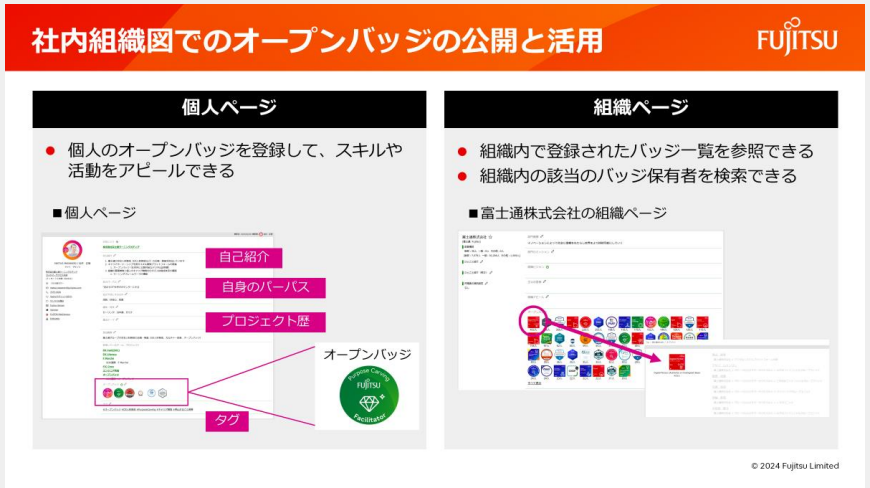
【オープンバッジの例】

Digital Person

変革に前向きなマインドを持ち、様々なデジタルツールを活用して、自立的に業務のデジタル化に取り組む人材を証明します。

Purpose Carving

対話を通じて、個人のパーパスを言語化する場をつくりだす活動「Purpose Carving」の 推進者にオープンバッジを付与します。



上：富士通が発行するオープンバッジ
下：社内システムと連携したオープンバッジの活用例

富士通が発行したオープンバッジ一覧（オープンバッジウォレット）
https://nlp.netlearning.co.jp/ns/portal/openbadge/public/assertions/user/TCtORGhkNzZYMUt6OS94NXc2T28wUT09

富士通Japan株式会社

〒212-0014
神奈川県川崎市幸区大宮町1-5JR川崎タワー
Tel.0120-835-554（お客様総合センター）
https://www.fujitsu.com/jp/group/fjj/

2015年7月13日 初版発行
2025年6月25日 9.0版発行
© 2025 Fujitsu Japan Limited

AC0504